

めがね橋(長姫橋)

城下町・飯田の発展を支えてきた石橋

江戸時代、飯田城下町(現飯田市街地)は深い谷(谷川)によって南北に二分されていた。谷川に木橋が架けられたが、橋の南(堀端通り(現銀座通り))と、北(伝馬町)は急坂を上り下りしなくてはならなかった。明治維新後に飯田城が廃城になると、中馬によって物資が集まる交通の要衝として、馬車通行を想定し、橋の前後の坂を埋め立てることとなり、1878(明治11)年、谷川にアーチ型の石橋が完成した。かつての谷川橋が、この時、飯田城の古名を残すために「長姫橋」と改称されたが、その形状から「めがね橋」と通称された。1947(昭和22)年の大火後の改修で正式に「めがね橋」となった。信濃の橋百選に選定されている。



飯田城の石垣の石で積み上げられたアーチ(写真:小西純一氏)



1947(昭和22)年4月の大火後、都市計画で橋から上下流側の谷は埋められ中央公園となった

下流は三六災害の後に護岸が整備された(写真:小西純一氏)



江戸時代の谷川橋(めがね橋(長姫橋))

「飯田城下図」の読み取り図
「みるよむまなぶ 飯田・下伊那の歴史」より

information

- アクセス
飯田駅から800m
徒歩→10分
- 所在地
飯田市伝馬町～銀座



長姫城の石

市街地再開発

橋の設計は座光寺の今村真幸まさきが行い、施工には主に上郷村の人びとがあたった。飯田町の士族は長姫城郭(飯田城の別称)の石を提供し、寄付金も出した。

橋建設の際、深く台地をえぐっていた谷川の両岸にも土が盛られ、馬車や自動車が通行できるようになった。同じ頃、城内には役所や学校が建てられるなど、市街地となった。橋造りは、今でいう市街地再開発の一環で、近代の飯田の街の骨格をつくることとなった。



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)